

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 764 号 令和 7 年 1 月

目次

○新年のご挨拶	1
・田中尚秋会長 ・山口大学共同獣医学部 度会雅久学部長 ・山口県畜産課 西村隆光課長 ・山口県生活衛生課 河村 章課長	
○年男・年女の抱負	4
・山口支部 平田晃一先生 ・長北支部 福田礼子先生 ・長北支部 松岡一仁先生 ・山口支部 柳澤郁成先生 ・豊浦支部 嶋屋佳子先生 ・豊浦支部 松本容二先生 ・徳山支部 中井 悟先生 ・山口支部 脇本雄樹先生 ・宇部支部 野見山真吉先生 ・長北支部 大石大樹先生 ・山口大学支部 羽原 誠先生	
○第 2 回小動物部会委員会開催報告（小動物部会長 岩柳支部 大黒屋 勉先生）	8
○産業動物講習会開催報告（産業動物部会長 豊浦支部 原田 恒先生）	8
○中国地区小動物講習会開催報告（小動物部会委員 徳山支部 三谷 藍先生）	10
○獣医公衆衛生講習会開催報告（獣医公衆衛生部会長 徳山支部 殿河内英雄先生）	11
○新入会員紹介（山口支部 温品彰一郎先生）	12
○リレー随筆（山口支部 岡山 猛先生）	12
○動物病院でも植物を（防府支部 豊川 剛先生）	13
○山口大学獣医学科創立80周年記念式典について（山口大学支部 上林聡之先生）	14
○お知らせ 山口県獣医師会館竣工式のご案内	15
○お知らせ 令和 6 年度第 2 回小動物部会講習会のご案内	15
○事務局だより	15



謹 賀 新 年

新 年 の ご 挨 拶

会長理事 田 中 尚 秋

明けましておめでとうございます。会員の皆様方をはじめ関係各位におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営並びにその事業推進等に格別のご支援・ご協力・ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年は、正月早々「能登半島地震」が発生し、また翌日には救援物資を届けようとしていた海上保安庁の飛行機と新千歳空港から飛行してきた日本航空の飛行機が羽田空港で衝突するという痛ましい事故が起きてしまい、波乱の幕開けでございました。また、その後、能登地方は集中豪雨で河川の氾濫やがけ崩れが発生するなど、重ねて多くの方が犠牲になりました。お亡

くなりになりました皆様にお悔やみを申し上げますと共に、被災された皆様方に、心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興を願うばかりでございます。近年、いつ、どこで災害が発生してもおかしくない状況が続いております。「災害時における動物救護対策」につきましては、一昨年、県と協力協定を締結させていただいたところですが、昨年は、下関市とも協定を締結することができました。これで、県下一円に行政機関等との協力体制が整ったこととなります。今後、災害が発生した場合は、行政の要請に基づき、負傷した被災動物の治療や被災動物の保護及び健康管理等に関し協力しながら対応に当たることとなります。引き続き会員の皆様の強力なご支援・ご協力を賜りま

すようどうぞよろしくお願いいたします。

愛玩動物(犬・猫)に係るマイクロチップの装着・登録については、相変わらず混乱が続いています。必要な法改正等、一刻も早く制度改革が進むよう指定登録機関である日本獣医師会のご尽力を期待いたします。

さて、産業動物分野では、今季、家禽における高病原性鳥インフルエンザの発生が例年より早く、しかも相次いで全国で発生しています。野鳥からも頻繁にウイルスが確認されており、今やどこで発生してもおかしくない状況だと思われます。他に、豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫等、畜産農家や行政の皆様はその対策に緊張の連続とご推察申し上げますが、ご自身の体調管理にも十分ご留意いただきたいと願うばかりです。

ところで、このたび核兵器廃絶を訴えて長年活動を続けてこられた日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞されることになりました。日本人にとっては誠に喜ばしい限りですが、ウクライナやガザ地区等では戦闘や攻撃が続いています。ワンヘルスや平和への願いをあざ笑うかのような地球(環境保全)を破壊する行為が続いていることは誠に残念なことで、私は、為政者にこそワンヘルスの推進に心を砕いてほしいと

熱望しているところです。

最後に、新獣医師会館の建設に係る件についてですが、現在、順調に工事が進んでおり、家屋は完成し既に内装工事に着手されています。年明け早々には外構工事も始まり、1月下旬にはすべての工事が完了し引き渡しが行われる予定です。悪天候等による順延がない限り、2月1日(土)には仮事務所から新会館へ引っ越しをする予定としています。また、2月16日(日)に、神主さんをお招きして、竣工式を開催する準備を進めていますので、ご案内が届きましたら是非ご出席いただけますようよろしくお願いいたします。なお、竣工祝賀会は開催せずに、来年度総会時の交流会において、今後続く新獣医師会館の竣工を会員の皆様とともにお祝いしたいと考えていますので、その節はまたどうぞよろしくお願いいたします。

輝かしい新年を迎えました。今年も事業運営並びにその推進に向けて関係各位の尚一層のご協力・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

山口県獣医師会の皆様、新年明けましておめでとうございます。令和7年を迎えるにあたり、昨年のご報告と今年の抱負を述べさせていただきます。

ワンヘルス(One Health)という概念が定着し、人間と動物の健康は連動していることが広く知られています。近年、このワンヘルスという考え方がさらに進化を遂げ、ワンウェルフェア(One Welfare)という考え方が提唱され始めています。健康だけではなく生活の質や心身のウェルビーイング(幸福感)は人と動物ともに大切なことであり、それ自体も連動しているという概念です。健康は一つと同時に福祉も一つであると考えられます。本学部ではワンヘルス研究を推進するため、医学と獣医学が連携し人獣共通感染症および食品・環境由来感染症の研究を行ってきました。これらをさらに発展させるため、One Welfare教育研究センターを設置し、地域社会と連携しホース・アシステッドセラピー等の動物介在活動、法獣医学に関する研究部門を設置し、新たな手法・視点によるワンウェルフェア研究を全国に先駆けて推進しています。昨年、本学部の取組が認められ、大学から産学公連携研究拠点の認定を受け、名称を「One Welfare国際研究センター」に改称し、全学的な組織に昇格しました。本年は本格的に大学からのサポートを受け、ワンウェルフェア研究をさらに発展させたいと考えております。

国際交流も継続して活発に行なっております。2021

山口大学共同獣医学部 学部長 度会 雅久

年から大学の世界展開力強化事業「アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム」が開始され、ナイロビ大学との本格的な交流が行われています。ナイロビ大学の教員と学生の受け入れが5名程度、および本学部の教員、学生、大学院生の派遣が10名程度の規模です。この活動は大学全体に波及し、アフリカの現状に興味を持つ他学部の学生が増え、実際に短期留学することになっています。今年度がプロジェクトの最終年ですが、今後も大学のプロジェクトとして引き続き交流活動を行う予定です。また、JICA草の根事業「ジョグジャカルタにおける農業従事者の生活向上のための牛繁殖効率の改善」では、インドネシアのガジャマダ大学の研究者との相互交流も継続しています。今年もインドネシアで開催されるシンポジウムに複数の学生と教員が参加し、学術交流を進展させる予定です。

山口大学獣医学科は、2024(令和6)年に山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えました。山口高等獣医学校から共同獣医学部へと歩んできた道を振り返り、その軌跡を明らかにすると共に、今後のさらなる前進と飛躍を期し、記念事業を行いました。多数の方々にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。当日にご参加いただいた皆様、また記念事業にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

山口県獣医師会をはじめ学外諸機関の皆様には、今後も様々な場面で連携をお願いすることになりますが、引き続きご協力とご指導を賜れば幸甚です。

終わりに、会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。本年も宜しく願い申し上げます。



新年のご挨拶

山口県農林水産部 畜産振興課長 西村 隆光

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素から畜産振興に格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、農林水産業を取り巻く環境については、高齢化による担い手の減少や、海外の不安定な情勢に加え、円安による飼料や生産資材の価格高騰などにより厳しい状況が続いています。

また、今シーズン最初の高病原性鳥インフルエンザはこれまでで最も早い時期の発生となり、さらには国内初となるランピースキン病も福岡県で確認されるなど、予断を許さない状況が続いています。

このため、県では、家畜を飼養される農場や関係者の皆様と連携して、飼養衛生管理基準の遵守徹底や国に対しては、水際対策としての検疫など一層の強化を強く要望しているところです。

加えて、万が一の発生に備え、必要な防疫資材を備

蓄するとともに、関係団体や企業と防疫協定を締結し、資材の調達、動員者の輸送等の協力体制を整え、危機管理体制を整備してきたところです。

また、これからの畜産経営には、生産性と持続性の両立が求められることから、「やまぐち和牛」の生産拡大と新たな分野への積極的な需要拡大に取り組むとともに、輸入飼料から県産飼料への転換を継続して推進するなど、関係者と一体となった取組を進めています。

今後も生産者や関係機関、行政が緊密に連携しながら、家畜衛生対策や畜産振興に取り組んでまいりますので、引き続き、高い見識と技術を有する会員の皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、山口県獣医師会の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

山口県環境生活部 生活衛生課長 河村 章

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことで、心よりお慶び申し上げます。新年に当たり、当課の主な業務動向を紹介し、御挨拶とさせていただきます。

まず、食品衛生関係では、昨年3月、小林製菓が製造した紅麴成分を含むサプリメントによる健康被害問題が発生し、消費者に大きな不安をもたらしたことは記憶に新しいところです。事件の発生を受け、本県においても、県民への注意喚起、保健所での相談対応、健康被害者の調査、製品の流通状況調査など、様々な対応に追われました。

本事件では、行政機関への情報提供の遅れが被害拡大につながったことから、機能性表示食品等による健康被害情報の保健所等への提供が義務化されるなどの対応が図られたところですが、改めて特定の食品に頼らないバランスのとれた食生活の大切さが認識されたのではないかと感じています。

次に、動物愛護管理関係では、本県の大きな課題で

ある野犬問題を解決するため、今年度、住民、学生、技術者等のアイデアを取り入れた新しいアプローチによる「デジタル活用による野犬対策強化事業」に取り組んでいます。

具体的には、周南環境保健所が独自に試作し、成果をあげている大型捕獲檻の遠隔操作システムに、多様なアイデアをもとに技術改良を加え、捕獲効率を向上させたシステムを構築し、野犬が生息する県内の他地域にも導入することとしており、県民の安心・安全の確保に向け、野犬問題を一刻も早く解決につなげたいと考えています。

県では、引き続き「山口県動物愛護管理推進計画」に基づき、人と動物との調和のとれた快適な暮らしづくりに向けた取組を推進してまいります。会員の皆様には、今後とも、本県の動物愛護管理行政への御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

終わりに、公益社団法人山口県獣医師会の益々の御発展と、皆様の御健勝、御多幸を心から祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

年男・年女の抱負



年男の抱負

山口支部 平田 晃一

あけましておめでとうございます。私は今年六度目の年男となります。この歳になると体力知力とも衰えを感じますが、それでも元気に動き回ることができます。昨年、財団法人を退職して自由の身になり、自分の好きなことをやりたいと思っていましたが、実際は毎日のウォーキングを除いてゴロゴロしてばかりいるうちに次の年がやってきました。最近では月日のたつのが本当に早く感じられ、漫然として過ごしては早々にぼけてしまいそうです。

大した目標を定めるつもりはありませんが、今年は不動になった単車や不調のオーディオ機器の修理を完了させ、また車を走らせることが好きなので山口県を離れて、いろいろなところを旅したいとも思っております。

終りに、ここ数年は戦争の拡大や災害の多発そして人家畜ともに感染症が流行するなど暗い事件が多かったようですが、今年はこれらの問題が緩和され、少しでも明るい年となるように願っております。



新年に思う

長北支部 福田 礼子
(フグダペットクリニック&ペットサロン)

令和7年で、六回目の干支を迎えることになりました。

この年齢になりますと、一年という時の流れがあっという間に過ぎて行き、新年を迎えても、若い頃のようなワクワクドキドキの感動が少々薄くなってしまいました。

長年この仕事をさせていただいていますと、それこそいろいろな子達(犬や猫、小鳥やその他の小動物)との出会いから別れまでを多々見てきました。中には珍しい出会い(こうもりの円形脱毛症…実は甘い菓子の食べ過ぎ)もありました。診断がなかなかつかない事もありました。

考えてみればこれからも仕事のためには一生勉強を続けることが大切だと思いました。いつまでこの仕事を続けることができるかはわかりませんが、動物達は大好きなので、できる限り長く付き合っていきたいと思っています。

今年も新しく顔見知りになった子や長年お付合してきた子達にとって、できる限り健康に楽しく過ごせる年になります様にと願い、そのお手伝いを精一杯して行くのが今の目標です。



焦らず、騒がず、気の向くままに

長北支部 松岡 一仁
(萩農林水産事務所畜産部)

新年明けましておめでとうございます。本会報への年男としての寄稿もいよいよ最終コーナー(もうゴールか?)に到達し、県職を退いてから12年目を迎えます。頭髮量も歳相応となり、かつて寄稿した「若ハゲ奮闘記」も懐かしい思い出となっています。幸いにして再任用制度の開始と獣医職不足の補充要員として継続就労の席を設けて頂いたこともあり、今もなお家畜衛生行政のお手伝いをさせて頂いております。お陰で規律ある生活が送れ、若い職員や農家の方々との会話の中から活力を頂き、老いを感じない日々を過ごしております。

私生活でも家内を連れて花見や紅葉狩り、温泉、名城めぐりに併せてウォーキングを行うなど、体力と健康維持に努めている次第です。

一つ気になっておりますのが、一般的に「高齢者」は65歳以上と定義されていますが、NHK放送文化協会が行った調査では、人々の意識の平均値を算出すると「72歳7か月から」なのだそうで、正にこの時が迫っているのです。恐らく、この時期に外見上の変化(老化?)が到来するのだらうと思われまます。外見上の老化は、身体的な老化にも繋がるようですので、手遅れの感がありますが、今後は我が辞書にも「美容」という言葉を書き加えようと思います。

巳年は「復活と再生」の年と言われております。私が生まれた昭和28年にも大きな出来事として「テレビ放送の開始」や「吉田茂のバカヤロー解散」などがあったようです。

今や自民党の単独独裁が終わり、この一年どのような社会変革が起こるのか、各党農業再生へ向けた姿勢は伺えますが、鬼が出るのか蛇が出るのか・・・

私共は、美容と健康に留意しながら「晴耕雨寝」「悠遊自適」に残された人生を送っていこうと考えております。



年 男 の 抱 負

山口支部 柳 澤 郁 成
(山口農林水産事務所畜産部)

歳月の経つ早さに驚愕しながら日々を過ごし、とうとう5度目の年男を迎えることになりました。

公務員獣医師として35年が過ぎようとしています、最近は公務員を離れて仕事をするなら自分は何かできるのだろうか？残りの人生でやりたいことは何だろうか？と自問する毎日です。

そこで、4度目の年男を迎えた頃から、己の可能性を広げるべく、様々な資格取得にチャレンジし(詳細は令和4年8月の会報に)、2年越しとなりましたが、昨年は高所作業車の技能資格を取得しました。

とにかく今は無資格操業に厳しい目が向けられるため、まずは安全知識や技術の取得を第一に、そして、異業種の方との交流を刺激に、講習では最年長者に向けられる冷ややかな視線をもとせず、受講に励んでいます。今年は2つ以上の資格取得が目標です。加えて、庭木を管理しながら剪定技術も習得したい。そうすると今年もあつと言う間の一年かな？おっと、獣医師としてもまだまだ頑張らなければ(笑)。



年 女 の 抱 負

豊浦支部 嶋 屋 佳 子
(嶋屋家畜診療所)

明けましておめでとうございます。

今年は、年女に該当するようです。公務員として就職して17年、その後、牛を飼い始めて17年、あつという間に過ぎて行きました。日々の仕事に追われ、すっかり年齢を忘れていました。先日、和牛女性部の方々とお出かけした際に私が発した、「来年は還暦です」に対して、「若いね」とお返事があったので、畜産農家になって良かったと思っています。

昨年は、文字通りおばあちゃんになりました。NICU(新生児集中治療室)看護師の娘がする、超合理的な手抜き育児と、旦那さんの素晴らしい家事・育児能力に時代を感じ、感心もしています。おかげ様で、孫は3か月齢で、よく笑う子に育っています。

自覚なく年齢を重ねていますが、まだまだ、人生を楽しもうと思っています。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。



変わるもの、変わらないもの

豊浦支部 松 本 容 二
(下関農林事務所畜産部)

昭和40年生まれ、来年還暦の年男です。

獣医師になるのが同年代の人よりだいぶ遅かった私ですが、県が拾ってくださったのでご恩返しを、という思いで長年勤めてきました。幸い、周囲の人に恵まれ、楽しく仕事させてもらったなあと振り返って思います。また、あちこち身体が痛んでも、どうにか動けるのは、出会って34年目の相方のおかげだなと、日々感謝しております。「そのわりに、感謝の品が届かん」という声もありますけど。

最近、好きなものや習慣は、年をとってもあんまり変わらないこと、それでいて新しいものに抵抗がないことに、自分でも驚くことが多いです。長年いろいろのものに触れてきて、閾値が上がったのかなと思います。レコードが買えず、エアチェックでカセットに録音していた曲が、今ではスマホで簡単に買える。変わったなあ、良くなったなあ、でも聞いている曲は45年前のヒット曲なあ。

もうすぐ定年だし、自分のままで、全部受け入れて受けとめて、ゆったり過ごそうと思っていたのですが、ありがたいかも、プラス3年働けと言ってくれたので、まだまだ頑張ろうと思っています。

写真は、0歳の私です。丸いだけは、変わらない・・・。



年 男 の 抱 負

徳山支部 中 井 悟
(アイリー動物病院)

新年明けましておめでとうございます。

今年で48歳になります。中年のおっさんです。特に何の夢も希望もありません。日々、平穩無事に過ごしていけたら幸いです。できることをコツコツとやっていくだけです。ハタから見ればつまらない生き方です。何が楽しい？と聞かれても、楽しい時は楽しいし、つらいときはつらい。色々な感情の繰り返し。バランスが取れていればそれは幸せだと思います。ここまでの人生振り返ってみて恵まれている方かなと思います。周囲の人、皆に感謝です。

抱負は？ということなので、強いて言えば、ストレスをためない。趣味の時間を大切にする。できないことは決意しない。程々にマイペースで頑張る。肩肘張らない。歯を食いしぼらない。無理しない。好きなことを好きなだけする。あとで後悔したらいしょうがないと思って諦める。失敗したら一通り反省する。他人の評価をちょっとは気にしつつ、できることから修正する。なるべく同じ失敗しない。嫌なことは忘れる。忘れられないくらいひどい記憶は別の幸福感で上書きする。目指すのは中庸、中道、虚心坦懐、自由闊達、ニュートラル、だいたいそんなところです。

1年後、また笑って新年を迎えたいです。



巳 年 の 男

山口支部 脇 本 雄 樹
(西京の森どうぶつ病院)

会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

最近では実年齢を気にすることもなくなってきましたが、節目の年齢ということですので、新年の抱負をお伝えしたいと思います。

仕事面では、今年で「西京の森どうぶつ病院」開業10周年を迎えます。引き続き、どこよりも楽しい動物病院を目指し、スタッフの成長の場を増やし、給与を増やし、部活動を増やし、年休取得率を増やしていきます。また、当院より独立開業を目指している獣医師がスムーズに開業できるよう支えていきます。特に経営者としての助言ができるの良いなと思っています。そして、願わくは、院長・副院長のお休みを増やしたいです。

個人面では、体のメンテナンスを行いながら、今年もロードバイクに乗り、みんなと楽しみながらサイクリングイベントに出場したいと思います。また、一昨年から始めた卓球は週1～2回の練習ではありますが、少しずつ上達しているので、今年は試合で勝ち上りたいと思います。

最後に家族との時間ですが、長期休みを取り二泊三日での旅行へ行きたいです。その目的地が屋久島になるのか、対馬や壱岐島になるのか、富士山になるのか、妻と相談しながら、実現したいと思います。

新しい年が幸多きものになりますことをお祈り申し上げます。



幸 福 度 と 年 齢

宇部支部 野見山 真 吉
(のみやま動物病院)

新年明けましておめでとうございます。今年48歳ということで4回目の年男をむかえます。何か原稿のネタがないかと考えたところ、先日気になる記事を見つけました。

世界145カ国で実施された研究で、幸福度と年齢の関係はU字形になっており、「U字の底」、つまり幸福度が最も低くなる年齢は48.3歳であるとのこと。この研究結果には、豊かな国も貧しい国も含まれており、世界的な傾向です。確かに若い時に比べ疲れやすくなり、老眼など身体の衰えを感じられます。また、仕事だけでなく子育てや親の介護の心配が出てくる時期でもあります。

ただ、人生まだまだ長いと思えば、これから幸福度は昇っていくばかりとも考えられます。記事を読んだ時に少し暗い気持ちになりましたが、気の持ちようです。いぶん変わってきます。

次回、60歳の年男をむかえるころを楽しみにしてこれからも人生を楽しんでいこうと思います。まずは、幸福度に大きな影響を与える健康を維持するため、食べすぎ・飲みすぎにはそろそろ気を付けたいところです。



年 男 の 抱 負

長北支部 大石 大樹
(長門農林水産事務所畜産部)

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昭和52年生まれ、今年が年男で48歳になります。今年もよろしく願いいたします。

昨年、東京で大学の同窓会があり、20年以上ぶりになつかしい面々と集まりました。外見も中身も皆いい感じに成長？し、病院の院長になっていたり、子供がもう大学生になっていたり、お互いの近況を報告ができとても楽しく過ごしました。

同窓会の後に、サウナにはまっている友人に連れられて、人生で初めて「整う」体験をしてきました。熱い石に水をかけて水蒸気を出すロウリュの後、熱波師が80度ぐらいの風を送ってくるのでかなり熱かったです。出たあとの水風呂、外気浴が最高でした。全国各地にはサウナ専用の施設があり、有名な熱波師がいる時間帯は行列ができるそうです。体調管理もできるし、48歳の休日の過ごし方としてはいいのではないのでしょうか？…ということで、今年山口でサウナを開拓することを目標に、頑張っていこうと思います。



年 男 の 抱 負

山口大学支部 羽原 誠
(山口大学共同獣医学部)

寒さ肌にしみる頃となりましたが、皆様お変わりございませんでしょうか。4回目の巳年を迎える羽原です。30代も後半に差し掛かり以前より無理が利かない身体になってきました。

そこで年齢に関する最近見かけた研究を紹介したいと思います。「Nonlinear dynamics of multi-omics profiles during human aging. (ヒトの加齢に伴う分子の非線形動態)」という論文が昨夏Nature Agingから発表されました。本論文では25～75歳の108名を対象にタンパク質、転写産物、代謝産物、微生物叢などのオミクスデータを取得し、加齢時の変動を調べています。すると加齢に伴う分子の変動は直線的ではなく44歳と60歳で大きく変動する、すなわち身体が変化することが分かりました。男性の厄年は25歳、42歳、61歳だそうで、理に合っているのかもしれませんが。

さて年男の抱負ですが、新しいことに挑戦する所存です。所属研究室に10月から岡本土毅先生が赴任されました(会報12月号を御覧ください)。研究分野の異なる先生との議論は学びも多く、刺激的です。まだ構想中になりますが、研究室のメンバーと共に新たな研究課題を始めたいと思います。

2025年も皆様にとって幸多き一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

旧年中の御厚誼を深く感謝いたしますと共に本年も何卒よろしく御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年(2025年)

理 事

会長理事 田中 尚秋
副会長理事 白永 伸行
常務理事 酒井 理
理 事 石井 俊昭
大石 大樹
後藤 孝一
佐伯 優紀 恵
高橋 学
中村 滋
新田 直正
松延 佐知子
森崎 次郎
脇本 雄樹

監 事

白銀 政利
水原 孝之
柳澤 郁成

支 部 長

岩 柳 奥原 達朗
熊 毛 河村 和俊
徳 山 橋本 介志
防 府 中野 正司
山 口 藤原 宣義
宇 部 網本 昭輝
長 北 大田 悦三
豊 浦 水藤 創
下 関 山中 俊樹
県 庁 古谷 知広
山口大学 高木 光博

部 会 長

産業動物部会 原田 恒
小動物部会 大黒屋 勉
獣医公衆衛生部会 殿河内英雄

会 報 編 集 委 員

柿原 新 米津 悟
菅原 淳也 前田 翔一
藤原 果南 原田 秀明
豊川 剛 大山 ゆき
福岡 恒 上林 聡之
中越 一郎 酒井 理

令和6年度第2回小動物部会委員会開催のご報告

小動物部会長 岩柳支部 大黒屋 勉
(みさお動物病院)

2024年12月5日(木)に小郡ふれあいセンターにて開催された、令和6年度第2回小動物部会委員会についてご報告させていただきます。本委員会には各支部の部会委員10名の先生方にご参加頂きました。

本委員会では「狂犬病予防注射実績について」「狂犬病予防注射指定獣医師の新規指定及び解除について」「狂犬病予防啓発ポスターについて」「小動物部会講習会について」「その他」の各議題について協議を行いました。

本年度の狂犬病個人注射頭数(前期)は県内合計22,813頭でした。犬の登録頭数および注射頭数に関して、支部からの報告と県の取りまとめとで、狂犬病予防注射頭数に1万頭差があるのは何故かという質問がありました。県生活衛生課から入手した資料によると令和4年度より岩国保健所管内の実験動物生産施設からの注射および登録が大幅に増加したことが要因の一つと考えられました。また、他地域においてもペットショップなどで本会会員以外が実施した狂犬病予防注射頭数が含まれているのではないかとのものでした。

指定獣医師の新規指定では、熊毛支部の二條久保静香先生が新に指定獣医師として承認されました。

小動物講習会について、本年度の第1回小動物講習会は中国地区獣医師会連合会の主催で、12月1日に

山口グランドホテルにて開催されました。日本獣医生命科学大学の長谷川大輔先生にご講演頂きオンラインを含め参加者は75名でした。講習会終了後のアンケートでも大多数の方から満足できる内容であったという感想を頂きました。

第2回的小動物講習会は、2025年2月23日(日)に酪農学園大学の井坂光弘先生をお招きして「心臓の内科と外科」という演題でご講演頂く予定です。詳細は獣医師会ホームページ等で周知して参りますので、ご確認頂き是非とも奮ってご参加頂きたいと存じます。

最後に、その他として狂犬病注射登録とマイクロチップ登録のワンストップ化についての質問がありました。これまで県内では柳井市のみ環境省へのマイクロチップの登録で狂犬病注射みなし登録(鑑札は交付されない)がなされる事になっていましたが、下関市と防府市でも同様の対応になったとの事でした。この件に関しては各市町で対応がバラバラで、今後同様の市町が増えるとしても時期等は不透明であり、所轄の市町担当部署と連絡を密にして情勢を見守る他ないという結論でした。

会員の皆様におかれましては今後とも小動物部会の活動にご意見を賜り、部会の運営にご協力頂きます様、重ねて宜しくお願い申し上げます。

令和6年度産業動物講習会開催報告

産業動物部会長 豊浦支部 原田 恒
(下関農林事務所畜産部)

11月10日(土)、山口市防長苑において、令和6年度産業動物講習会が開催されましたので概要を報告します。

講師は、山口大学共同獣医学部副学部長を兼務されている獣医繁殖学教授 高木光博先生をお招きし「繁殖牛群における飼料由来カビ毒汚染と繁殖性への影響」と題して、マイコトキシン(カビ毒)の概要や測定法の紹介、繁殖障害との関連、フィールドでの実用例について講演していただきました。講習会は、昨年と同様、一般公開形式で行われ、会員の他学生や畜産農家等、計45名が参加されました。

マイコトキシンとは、カビが産生する二次代謝産物のうち、ヒトや動物に対して毒性を持つものをいいます。高濃度のマイコトキシンを摂取した動物は急性症状を呈し、死亡することもあります。現在、急性例はほとんど発生が見られませんが、低濃度のマイコトキシン暴露による生産性低下に注意が必要です。人や動物に様々な臨床症状を引き起こすマイコトキシンは、300種(最新研究では500種との報告も)以上が知られています。飼料対策として

は、デオキシニバレノール(DON)、ゼアラレノン(ZEN)、アフラトキシンA、フモニシンについて、飼料安全法により飼料への残留規制基準値が定められ、輸入時の配合飼料の検査が行われています。また防除法としてはカビ毒吸着剤として、腸管でカビ毒を吸着して体外に排出するもの、酵素の作用を利用してカビ毒の無毒化をするものなどが市販されています。

人の尿からもカビ毒の検出事例が報告されていますが、人が摂取する食物は様々であり、どの食物に由来するか調査することは容易ではありません。一方、牛は粗飼料と濃厚飼料のみを摂取しており、また配合飼料は検査済みであることから、牛へのカビ毒の影響は、粗飼料に由来すると考えられる、とのことでした。

今回は、牛の繁殖性への影響が強いZENを中心に詳しく説明されました。ZENはフザリウム属菌の真菌が産生するマイコトキシンの一種であり、とうもろこし、小麦、大麦、米などの穀物を汚染します。ZENはエストロジェンに変わって作用し内分泌機能を攪乱

するため、多様な繁殖障害をもたらす生産性を低下させる一因となります。また、ZENは肝臓で代謝されますが、その代謝産物もエストロゲン受容体との親和性が高いとのことでした。

現在、飼料中のカビ毒調査は、公的機関等により配合飼料等のマイコトキシン濃度測定が行われています。しかし、マイコトキシンは飼料中にスポット的に存在するため、検査時は様々な箇所から試料を採取し試料を均一化する必要があること、同じ検体でも検査数値が異なることから、飼料中マイコトキシン濃度測定では、カビ毒による生産性低下を捉えるには不十分との説明がありました。先生は、牛の尿を検体に用い、安価なELISA法によるスクリーニング検査と高速液体クロマトグラフ法（質量分析）による精密検査を組み合わせた「尿中のカビ毒および代謝産物の測定系」を開発し、牛の生体由来サンプルによるカビ毒モニター法を確立した、との説明がありました。

また、生体側の評価指標として、繁殖性の評価に用いる抗ミュラー管ホルモン（AMH）や、環境から受けるストレスの指標として着目されている血清アミロイドA（SAA）について紹介され、これらの測定と生体サンプルのカビ毒測定を組み合わせることで、生体へのカビ毒の影響を評価する取組が検討されているとのことでした。特にAMHについては、先

生の研究で、牛卵胞液中にZENとその代謝産物が存在することを特定し、ZENが、卵胞の顆粒膜細胞のアポトーシスを引き起こすことでAMH分泌の減少をもたらす、牛の繁殖性低下に影響を与える可能性がある、との説明がありました。

最後に、黒毛和種繁殖牛群における給与飼料由来カビ毒の長期モニタリングの事例紹介がありました。牛群のZEN汚染評価には牛群のうち2頭の尿を検査することで摘発可能なこと、また、血中AMH濃度と尿中ZEN濃度には負の相関関係があり、ZENに汚染された飼料が、牛群の繁殖性低下に影響を与える可能性があること示唆された、との説明がありました。

現在、先生は、JRAの事業を活用して牛群へのカビ毒浸潤動態モニタリングに取り組みされており、あと2年間は、飼料サンプルと牛の尿を送付すれば検査対応が可能とのことのお話がありました。講演終了後は質疑時間が30分にも及び、参加者のカビ毒への関心の高さがうかがわれました。

これまで、家保では、農場でのカビ毒の実態調査はほとんど行われておりませんが、今回の講演で、指導に活用可能な手法をようやく学ぶことができ、大変参考になりました。カビ毒の実態はまだ不明な部分が多く、今後、機会があれば先生にご相談し、知見を少しでも積み重ねていければと感じました。



講演される高木光博先生



質問される徳山支部 貞本龍彦先生



会場の様子

牛群カビ毒浸潤動態のモニタリング

- ✓ 同一飼料（ロット）が給与されている牛群の2頭～
- ✓ 尿サンプル（セラピッツ各1本）
- ✓ 冷凍庫で保存
- ✓ 着払いクール宅急便にて送付
- ✓ 宛先：〒753-8515
山口市吉田1677-1
山口大学共同獣医学部 高木光博
電話：083-933-5904、Mail: mtakagi@yamaguchi.ac.jp

牛群カビ毒浸潤動態のモニタリングの案内

令和6年度中国地区小動物講習会開催報告

小動物部会委員 徳山支部 三 谷 藍

(三谷獣医科病院)

12月1日(日)山口グランドホテルにて中国地区小動物講習会が開催されました。

講師に日本獣医生命科学大学 獣医臨床神経学教授 長谷川大輔先生をお招きし、てんかん発作の治療を内科的・外科的にアプローチする！というちょっぴりセンセーショナルな内容に当てられて、会場内も開演前から多くの熱気に包まれておりました。

本講習会に先立ち、山口県獣医師会 田中尚秋会長より県内外から多くの先生方に会場やオンラインでご参加頂けたことに多大なる謝辞をもって開会の挨拶がなされ、簡単な講師紹介の後に長谷川先生の講演がスタートしました。

事前に配布された資料には多くのスライドが掲載されており、その厚さに今日中には全部は話さきれないと長谷川先生自身がおっしゃっていた通り、小難しい話を割愛して進んでいく講演内容は逆にシンプルで非常にわかりやすく感じました。てんかんの鑑別症状の動画や開頭術を含む術中動画も講演の中で多くの症例において説明していただきました。

個人的にナルコレプシーなど、名前は有名な病気でもなかなか実際に症例に出くわすことがない症状などを動画で見せてもらえたことで、恐らくもう二度とわすれることはないだろうなと思いました。また、他にもてんかん発作の起点となる発火点を脳波で特定し電気的スパークを拡大させないように脳組織を切開・分離したりする外科的なアプローチ方法をとることで、内科的コントロールが難しく、安楽死の選択が上がってくるような症例もQOLを維持しつつ終生飼養が可能となった症例報告など、とても貴重な資料を見せていただいたなと思っています。

質疑応答では山口大学の谷健二先生、伊藤晴倫先生はじめ、多くの先生方から活発な質問があがっていました。最後に山口県獣医師会白永伸行副会長による挨拶をもって5時間にわたる講習会は終了いたしました。

講習会の様子は県獣医師会HPにも掲載されておりますので、まだの方はぜひご覧になっていただけたらと思います。



講演される長谷川大輔先生



質問される山口大学支部 谷健二先生



会場の様子

令和6年度獣医公衆衛生講習会開催報告

獣医公衆衛生部会長 徳山支部 殿河内 英雄

(山口県周南健康福祉センター)

令和6年11月23日(土)、山口市の防長苑において令和6年度獣医公衆衛生講習会が開催されました。今年は山口大学共同獣医学部 One Welfare教育研究センターの牛根奈々先生をお招きし、「法獣医学と動物福祉学の紹介～人・動物・環境の健康を守る～」という演題で御講演をいただきました。当日は、会員の他、動物愛護団体などの一般県民の方、あわせて52名が参加され、大盛況の講習会となりました。

本年度から山口大学に着任された牛根先生は、元々野生動物、特に野鳥がご専門とのことですが、法獣医学を研究される数少ない先生で、大学では、法獣医学と、関連する野生動物を含む動物のwelfareについて研究されておられるそうです。

今回の主題の一つである法獣医学(Veterinary forensics)は、動物の状態や置かれた環境を科学的に分析し、動物の不審死や不自然な病態の原因を同定する学問で、近年、その必要性が急速に増している新しい分野です。

講演では、まず、法獣医学業務についてお話をされました。具体的な事例として、動物虐待が疑われる事件で、警察から動物の死因の特定依頼を受けた事案について、写真を用いて説明されました。動物の不審死の写真なので、かなり刺激的なものもあり、受講者はスライドに釘付けになっていました。

動物虐待は、神戸連続児童殺傷事件(俗にいう酒鬼薔薇聖斗事件)など、人への殺傷事件に先行することが多いため、動物の死亡原因を解明することは、社会の安全につながるものであるとの説明がありました。

次に、動物虐待と関連して「動物愛護」と「動物福祉」についてお話をされました。「動物愛護」が人間側の主観的な視点であるのに対して、「動物福祉」とは、動物が存在する環境と関連する動物の身体的、心理的な状態であり、5つの自由や5つの領域(栄養、環境、健康、行動、精神)など、客観的な視点でその良否が評価されるものであると説明されました。さらに、伴侶動物、産業動物、野生動物など、動物は人の利用様式で分類ことができ、それぞれのグループで「良い」動物福祉の要素は変化するものであることを伝えられました。「動物愛護」については、字面のとおりで、世間でもイメージが定着していますが、「動物福祉」については、様々な立場の動物がいることを理解しておかなければ捉えにくい概念ですが、人間とその他の動物が共存していくためには、みんなが理解しておく必要があると感じました。

また、特にご専門である疾病鳥獣救護についてもお話がありました。疾病鳥獣の救護は、生物多様性の保全、感染症モニタリングなど、多様な問題への水際対策に資するものであること、野生鳥獣を保護することにより、直接的な利益にはつながらないが、積み重ねることで人の健康に貢献するものであると説明されました。野生鳥獣を行政が保護することは1960年代から法制化されているものの、地域によって対応に差があり、全体として縮小傾向であることを懸念されていました。

今回の講習会では、先生には一般の方にも分かりやすいように、とても配慮してお話をしていただき、受講者全員が新しい知識を習得することができたと思います。また、受講者がスマートフォンを使って

リアルタイムで回答するアンケートを行うなど、受講者が参加しながら受講できる手法を取り入れられ、県民に情報を発信する立場である自分にとっても大変勉強になりました。

公衆衛生とは、公衆(みんな)のためのものであり、獣医師以外の方にも理解していただく事が重要であると考えていますが、今回の講習会では受講された全ての方に興味と理解を深めてもらえたものと感じました。

牛根先生におかれましては、研究や学生の指導に多忙を極めておられると思いますが、引き続き御支援、御協力をいただければと思います。

余談になりますが、先生には講習会後の懇親会でも、茶道で使う「羽箒」の動物種の鑑定依頼を受け、羽根を切り刻んで分析したところ、茶道関係者からひどく怒られたことなど、大変面白い話を聞かせていただき、個人的にも大変楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。



講演される牛根奈々先生



スマートフォンを使ったリアルタイムアンケート



会場の様子

新入会員紹介

はじめまして



はじめまして。昨年度、山口県獣医師会に入会いたしました温品 彰一郎と申します。現在、NOSAI山口西部地区家畜診療所に勤務しております。入会は昨年度ですが紹介文を失念しておりまして、この度紹介させていただくことになりました。

出身は山口市で、高校卒業後は北海道にある酪農学園大学に進学しました。大学では主に牛におけるボルナウイルスの研究を行っておりました。北海道で過ごした大学生生活は非常に刺激的で、良い経験となりました。

私生活ではサッカー観戦やスノーボードが趣味で、冬は常に車にスノーボードを積んでいました。また、

山口支部 温 品 彰一郎

(山口県農業共済組合 西部地区家畜診療所)

長期休暇には航空券だけを予約し、様々な国を旅行しました。そのため、インドでは宿が無くて現地の人に囲まれて野宿したり、メキシコでは財布を盗まれたりといった出来事もありましたが、振り返ると全てが良い思い出です。特にキューバで昼下がりには飲んだモヒートは絶品で、またいつか訪れたいと思っています。

卒業後の進路については色々悩みましたが、実家にいる両親や2頭の犬の存在もあり、山口にて就職することにしました。特に、飼っているうちの1頭は小学生の時から付き合いのある高齢犬ですので、しっかりお世話していこうと思います。

獣医師会の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。

リレー随筆

山口支部 岡 山 猛

(山口県農業共済組合)

早いもので、気が付けば共済組合に就職して31年目を迎えています。2人の子供も就職し働く意義が薄れる中、この5月には新たな子猫を迎え格闘している毎日です。さて、中常獣医師にリレー随筆を任されたものの書くことが思いつかなかったため、周りの人に聞くとこれまでの趣味を書けばという事なので、かいつまんで書かせていただきます。

趣味と言っても、性格上、2,3年周期でブームが去るのですが、未だに続いているのが10年ぐらい前に始めた包丁研ぎ。テレビ番組で森三中が研ぎ師に包丁の研ぎ方を教わるという特集で、簡単に切れ味が良くなったのを妻が見て、「やってみて」と言われたのがきっかけと記憶しています。全くの初心者でしたので、インターネットで包丁の構造、材質、研ぎ方などを調べまくり、試行錯誤で研ぎまくり、指紋は無くなり生傷が絶えない日々が続きました。中には診療に支障が出たこともあり、農家からお叱りを受けた事も何度か。今ではかなり上達したと自負しており、依頼があれば研ぎ直しを行っています。

また、この年になってまだゲームをやるのかと言われるかもしれませんが、やる事が無く暇つぶしで始

めたオンラインゲーム。いつの間にかギルドマスター(管理職)を任せられ、家に帰ってからもギルドのまとめ役をやる羽目に・・・もめ事が起こると頭痛いんですよねー。焼酎を飲みながら黙々と日々の課題をこなしております。

60歳まであと5年。定年延長でどうなるか分かりませんが、老後の事も考え他の趣味を模索しながら生活していきたいと思っています。

次回は、職場の先輩 東部地区家畜診療所の田村英則先生にお願いします。



動物病院でも植物を

防府支部 豊川 剛

(とよかわ動物病院)

明けましておめでとうございます。

寒くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

防府支部の投稿で何を書けば良いだろうと悩み、そして私には植物ネタしかないことが発覚してしまいました。

昨年の投稿では自宅の植物の話を書かせていただいたのですが、今回は当院での植物事情を書いていると思います。

観葉植物から始まり、自宅では塊根系やアガベ等の植物に興味嗜好が移っているのですが、院内では待ち時間の癒しや驚きをメインに考えて植物を育てています。

スタッフに時間を取らせないように基本的に自分で水やりや剪定など行うようにしており、またそれが自身への癒しの時間にもなっています。

動物病院で育てられている観葉植物といっても、ワンちゃんやネコちゃんが口にしても大丈夫と言われているものだけではないため注意書きと、あくまでも「人のための癒し」となればということに記載をしたボードも設置しています。

まず、以前は柘植（つげ）などを植えていた駐車場のスペース（スロープや階段の側）にはドライガーデンのような感じで植栽をしています。メインは写真左のボトルツリーで、真ん中にはウチワサボテン、右にはアカシアを植えています。定期的に掃除をすることで枯葉などをワンちゃんが口にしてしまわないようにしていますが、飼い主さん達にもワンちゃんが誤飲しないように注意喚起・ご協力いただいています。



屋外写真

室内では、大きなビカクシダ（グランデという種類）やアフロなガジュマルをメインに様々な植物を置いています。飼い主さん達からは、自宅ではなかなか観葉植物を置けないから癒されていますと言っただけなので目的は達せられているのかなと思っています。

院内に置いてある植物で問題が起きないように、注意喚起や配置など色々工夫が必要ですが、植物を見た飼い主さん達から話題を振ってくださったり、



院内写真（植物名は割愛させていただきます）

素敵ですねと声をかけてくださることが多いので、少しでも癒しにつながってくれているのではないかと感じています。

現在のところ誤飲など問題が起きたことはありませんが、今後も注意しながら院内の植物を増やしていけたらと思っています。皆様も日々のお仕事に疲れてしまった際には是非、自然でも観葉植物でも、緑を求めてお出かけされてはいかがでしょうか。



私事でのご投稿ですみません。2025年も皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

山口大学獣医学科創立80周年記念式典を終えて

山口大学支部 上 林 聡 之

(山口大学共同獣医学部)

去る10月26日、かめ福オンプレイスにて「山口大学獣医学科創立80周年記念式典・祝賀会」が無事執り行われました。私も運営側の一人として参加させていただきました。ご参加・ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。80周年の始まりは1944年1月に設置された山口高等獣医学校とされています。翌1945年には山口獣医畜産専門学校と改称され、1948年に山口大学へ農学部獣医学科として加わりました。2012年には鹿児島大学との共同獣医学部となり、現在に至っています。その80周年の節目として、この度上記の会が計画されました。

式典に先駆けて、山口大学内に近年導入された施設の見学会や、山口大学卒業生でニューヨークの動物病院にて勤務されている添田晋吾先生より在学生に向けて、海外での挑戦についての講演を行っていただきました。いずれも盛況で、添田先生、ならびに担当の先生方に厚く御礼申し上げます。

式典では来賓の皆様より祝辞を頂戴し、獣医学科の沿革を学部長より紹介の後、記念講演にて添田晋吾先生、山際大志郎先生（ビデオメッセージ）、山手丈至先生、林良博先生にご講演をいただきました。

様々な世代を振り返る、貴重な機会になったことと思います。祝賀会では世代を問わず広く交流があり、とても盛り上がった会となりました。祝賀会の終了間際に学生代表からOB、下級生に向けた素晴らしいスピーチがあり、会場全体から大きな拍手で称賛されました。最後に次世代の山口大学獣医学部教員代表として谷口雅康先生よりご挨拶をいただき、学部長による閉会のことばで締めとなりました。これらのプログラムが終わったあとがある種本番で、集まった研究室や学年ごとに分かれ、夜の湯田の町に繰り出すこととなりました。

最後に、本会に際しましてご協力やご寄付を賜りました先生方に、改めて厚く御礼申し上げます。運営の一員として、大変なことが多くありましたが、会に参加して多くの先生方のお顔を拝見し、開催できて良かったと感激すること一入でした。次回は20年後の100周年かと個人的には考えておりますが、次の機会の際にも温かいご支援をいただけますと幸いです。今後とも山口大学共同獣医学部をよろしくお願いたします。



式典受付にて 右：筆者 左：小野先生（大動物研究室、一個上の先輩）と。飲み物はノンアルです！

お知らせ

山口県獣医師会館竣工式のご案内

- 中領八幡宮宮司さんをお招きして下記のとおり新獣医師会館の竣工式を開催します。
- 日 時：令和7年2月16日(日) 午後2時から午後3時30分まで
 - 場 所：山口市小郡ふれあいセンター 2階 集会室(山口市小郡下郷1440番地1)
 - 内 容：神事、式辞、会館取得経過報告、祝辞
 - 出 欠：別途送付する開催案内に同封の返信用はがきを2月3日(月)までに投函してください。
 - その他：式典終了後、山口県獣医師会館の見学会を行います。

令和6年度第2回小動物講習会のご案内

- 下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。
- 日 時：令和7年2月23日(日・祝日) 10時～16時
 - 会 場：防長苑2階 孔雀の間(山口市熊野町)
 - 講 師：酪農学園大学 伴侶動物外科 運動器科/循環器診療科長
教授 井坂光宏 先生
 - 演 題：「心臓の内科と外科」
 - 参加申込：令和7年2月13日(木)までに、本会事務局に申し込んでください。
 - 参加費：本会会員は無料ですが、それ以外は次のとおり参加費をいただきます。
学生：千円、愛玩動物看護師等：2千円、その他(一般)：3千円
 - ◆昼休憩の時間にランチョンセミナーを開催します。
テーマ：血液によるがん検査 Nu.Q Vet Cancer Testの活用
講 師：富士フイルムVETシステムズ株式会社 新規事業推進部
学術担当獣医師 須藤大輔 先生

今後の主な行事(予定)

- 1月24日～26日 ・日本獣医師会獣医学術学会年次大会(仙台市)
- 1月31日 ・第8回獣医学教育改革推進連携協議会(山口大学)
- 2月1日 ・仮事務所・保管倉庫 荷物運搬(県獣会館)
- 2月14日 ・山口県家畜保健衛生業務発表会(県庁：会長)
- 2月16日 ・山口県獣医師会館竣工式(小郡ふれあいセンター)
- 2月20日 ・第2回支部長会議(県獣会館)
- 2月23日 ・第2回小動物講習会(防長苑)
- 3月13日 ・第4回理事会(県獣会館)

事務局だより

- 12月1日 ・中国地区小動物講習会(山口グランドホテル)
- 12月1日 ・ペット動物同行避難訓練(周南市)
- 12月5日 ・第2回小動物部会委員会(小郡ふれあいセンター)
- 12月19日 ・会報編集委員会(仮事務所)
- 12月21日 ・中国地区獣医公衆衛生講習会(米子市)
- 9日 23日 ・事業推進会議

次回編集委員会 1月23日(木) 13:30～

山口県獣医師会会報 第764号 令和7年1月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷